

論文内容の要旨

氏名	釜本 智之
Protein C pathway in preterm birth with chronic lung disease: Prospective study (和訳) 慢性肺疾患の早産児におけるプロテインC経路:前向き研究	

論文内容の要旨

背景 慢性肺疾患(CLD)は、早産児に多く見られる呼吸器疾患の一つであり、発達中の肺における損傷と修復機構のバランスが崩れ、長期の人工呼吸や酸素療法を必要とする。CLD児は炎症性サイトカインが上昇することが報告されており、慢性的な炎症がCLDの病因に重要な役割を担っていることが示唆されている。プロテイン(C)C、S、トロンボモジュリン(TM)は凝固能の調節に重要な役割を担っているが、最近の研究では炎症とTM、C、Sとの関連が報告されており、急性肺傷害の成人患者でTM値が増加しC値が減少していることが示されC抗凝固経路が成人の急性肺障害を反映する指標として有用であることが示された。しかし、CLDを発症した極低出生重児(VLBW)におけるこれらの因子の関 については、 だ検 されていない。ここでは、C凝固 関連因子がVLBW早産児のCLD発症を するかどうかを検 した。

法 出生時にVLBWの早産児26名(CLD発症者と非発症者 1名)から 漿を採取し、漿中のTM、C、S濃度を 定した。CLDは、修正週数6週で酸素供給を必要とする児と定義し、これらの因子の関係をレトロスペクティブに解析した。有 差はMann-Whitney U-test および Fisher's exact testを使用した。トロンボモジュリン値とCLD 発症との統計的有 性を評価するために共分散分析(ANCOVA)を使用した。

結果 CLD群の在 週数および出生時 重は非CLD群に比べ低かった($p < 0.01$)。CLD群ではサーファクタント療法を受けた数、人工呼吸および酸素療法の期間がそれぞれ非CLD群より高かった($p < 0.01$)。出生時のCおよびSレベルには両群間に有 差は認められなかったが、Sレベルと在 週数 発症との間に相関が認められた(それぞれ、 $r = 0.49$ 又は 0.67)。CLD群のTM値は非CLD群に比べ有 意に高かった($p = 0.01$)。TM値は、在 週数や人工呼吸の期間と相関があった(それぞれ $r = -0.64$ および 0.49)。しかし、共分散分析により、在 週数を調整した出生時のTM値はCLDの発症と相関がないことが示された。一 方、在 週数は、CLDを調整した後、TM値と関連していた。CLDの発症は出生時のTM値とは関連しないことが示された。

結論 出生時のTM、C、Sの値は、低出生重早産児のCLD発症を 予測することはできなかった。